

上の宮八坂神社 鎮座地：三軒家 2-7-18

上八坂神社といわれている。正保4年(1647)9月、三軒家の開発者「中村勘助(木津勘助)」が京都祇園の八坂神社の分霊を勧請し、素戔鳴尊を祭ったのが、起源であるという。社殿は三軒家東2丁目のほぼ中央にあたる丸島に建てられたが、宝永4年の大津波で水害を被ったため、正徳年間(1711~16)に富が岡と呼ばれる景勝の丘上に移った。これが現在の社地である。

大正8年に「中村勘助彰徳会」を興し、境内に彰徳碑を建立した。昭和20年3月に戦災により社殿は焼失したが、その後昭和32年5月に再建され、平成8年11月御鎮座350年祭が盛大に斎行された。

## 中村勘助の碑

中村勘助源義久彰徳碑が八坂神社の社殿の傍らにあり、背面の刻文は、空襲で傷つけられたため全文の判読は困難だが、三軒家東小学校百周年記念誌に掲載されている碑文全文は次のとおりである。

中村勘助、姓は源、諱は義久、新田義貞の末流にして資性剛直沈勇なり、其の木津村に住むの故を以て、時人之を木津勘助と呼ぶ。豊臣家摂海の要害を完備する為、姫島即ち今の三軒家北岸に軍船碇繋所を建設するに方り、勘助船舶安全の施設を以て大阪開発の要務なりとし、慶長十五年(1610)沿岸一帯に堤防周築の計を立て自ら奮って其工を起す。爾来刻苦励精万難を排し、遂に之を完成し、此に倚て内田圃を開き、外風波を防ぎ船舶の碇泊始めて安きを得、豊臣家其の功績を賞し、此の地を勘助島と称せしむ。勘助又大阪市内船楫の便を増進せんと欲し、寛永七年(1630)木津川を浚渫す」と功績を紹介している。その勘助が「寛永十八年(1641)飢饉あり、餓孚道塗に満つ。而も幕府の処置其の宜しきを得ず。勘助憤慨惜く能はず。挺身之が救済を図りし可熱誠の激発するところ其の所為却て規制を逸し、為に罪を獲て斬に処せらる。時に万治三年(1660)十一月二十二日、年七十有五。惟ふに勘助は独り三軒屋村の開祖たるのみならず、亦大阪における水利の恩人なり。乃ち此に碑を立て其の功を勒し、以て後昆に傳ふ。

山口 眞臣 識  
清水 南岸 書

